大仙市教育研究所 所報
けやき
第14号　2018年3月9日発行

学 校 の 色
～「入ってくる学校」から「入りたい学校」へ～

大仙市教育委員会　教育長　吉　川　正　一

「社会に開かれた教育課程」

新しい学習指導要領が示され、小学校は2020年から全面実施となります。来年度から移行期間に入ることにより、各学校ではその教育課程編成に苦慮されていることと思います。今回の指導要領改訂までの間、中教審等から最初「アクティブ・ラーニング」という聞き慣れない教育用語？が示され、それを踏まえた授業改善が進められてきました。その中で、秋田の「探究型学習」はその考え方に当てはまる学習スタイルと評価されています。

そして、2017年３月に新学習指導要領が告示されました。その一番の柱は「社会に開かれた教育課程」ということです。指導要領の前文にこのように表現されています。

「教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。」

つまり、学校の教育が学校の中だけに閉じたものにならないようにする、というこの方向性は、指導要領全体で貫かれているということです。

昨年度から本格的にスタートした「大仙教育メソッド」は、まさに地域とのつながりを重視しながら小・中連携を推進するというものであり、その中で「地域活性化に寄与できる子ども」を育成することを目指しています。このことは、開かれた教育課課程を進める上で、大きなバックボーンになっていると考えています。また、学び方にしても、各中学校区に任せているとはいえ、「基礎となる力」「学ぶ力」「活かす力」は、今回の学習指導要領改訂のポイントと軌を一にしていると思います。

各学校においては、是非自信をもって、地域の特性を生かし、地域コミュニティの核としての存在を確かなものにしていっていただきたいと思います。

「学校の色」

指導内容が広範囲になる中、一方で各学校の特色ある教育も求められています。地域の学校として位置付けていく以上、その学校の地域色とともに、「学びの質」における特色も出しながら、地域に根ざした信頼される学校を創っていかなければなりません。

大仙教育メソッドの小冊子に紹介されている各中学校区の教育活動は、三つの力を培う特色ある活動が進められており、「花火」「あいさつ」「お手伝い」「花づくり」など、特に基礎となる力や活かす力における活動は確かに学区の「色」を持っていると思います。ただ、「学ぶ力」における「色」はどうでしょうか。以前、ＮＨＫの番組で、小学校１年生からの英語学習（毎日５分間学習）を学校の特色として進めている小学校が紹介されていました。教科指導に特化する必要はないかもしれませんが、各学校の「学びの色」をもっと出してほしいと感じています。

今、市教育委員会では、仮称ですが**「大仙スクール＆ビュー体験」**というものを考えています。大仙市の学校教育の質は高いと感じていますし、県外からお出での視察の先生方からも高い評価をいただいております。それと自然や文化の豊かさを合体させた「教育・観光旅行」を県外の方々に提案するというものです。既に似たような教育旅行は行われていますが、この企画により、本市の子どもたちが学校やふるさとに自信と誇りをもつとともに、グローバルな感覚も育てられるものと期待しているところです。ただ、そのためには、大仙教育の色、各中学校区の色、各学校の色をしっかり出すことが大切です。黙っていても「入ってくる学校」から保護者や子どもたちが「入りたい学校」と思うような「学校の色」を創っていってほしいと思います。そのためにも、「学ぶ力」における色が出るような「カリキュラム・マネジメント」を構築していってもらいたいものです。

＜活かす力：花火シンポジウムおもてなし＞

＜学ぶ力：教育課程研究指定校事業＞

「教師しぐさ」

とは言うものの、「色」を出し、あせることなく輝かせていくことはそう簡単なことではありません。そのためにはしっかりした「学習規律」が基盤となります。それを育てるのは教師の力量に負うところとなります。

かなり前になりますが、「教師しぐさ」（松本徳重著）という本に、教師のワザとして、次のような例が載っていました。

- 教師のしゃべりすぎは、自信のなさの証拠：授業中教師が無言でいる時間は、子どもが考え、思考を練り上げている大切な時間である…という認識が必要。
- 「早く」の教育より「三と」の教育：学びを深くするためには…「ゆったりと」→見通しを持たせる、「ゆっくりと」→個々の能力差に配慮、「じっくりと」→子どもの理解と目線に合わせる
- 教室に入るときは、気分を切り替える：いろいろな日があるが、教室に入るときは「笑顔」が原則。穏やかな教師は、穏やかな学級を創り出す。
- 「オウム返し」：子どもの発言を引き取って、分かりやすく要約してしまうと、「発表した子の発言」ではなく、「分かりやすい教師の発言」となってしまう。

他にもいろいろな「ワザ」があると思いますが、それらを学校として先生方全員が実践していくことが大切です。

大仙市の教職員は素晴らしい力をもった教師集団だと自負していますが、これからますます「学び続ける姿勢、学ぶ力としての学力」が求められてきます。そして、子どもたちに学び方や学ぶ姿勢を身に付けさせるためには、まず教師が「絶えず学ぶ、学び続ける」という学びの在り方をイメージして指導していくことが大切です。それが「入りたい学校」を創っていく源になると思います。

教育課程研究指定校事業（ESD）（国立教育政策研究所）

「大曲南中 ESD」を目指して

大仙市立大曲南中学校　教諭　吉 沢　　理

平成28・29年度と標記指定を受け、「持続可能な社会に向けた人づくりを目指した、問題解決的な学習を中心とする全教育活動における指導方法の工夫改善」を主題として研究を継続した。

1　研究の概要

研究のキーワードを“Think Globally, Act Locally”「共通実践事項と授業改善」「ホールスクール及びホールエリア」「交流と連携を生かした体験学習」「大曲南地区SDGｓ」とし、協働的実践力の育成を進めてきた。

2　研究の成果

○全教科等での共通実践事項の徹底により、生徒が課題意識をもって学び合う協働的な実践力を育成することができた。
○ゴールを設定しそれを見通した総合的な学習の時間の展開により、学習事項を発信する力や生活への活用力の向上が見られた。
○ホールスクールの取組を、地域を含んだホールエリアの取組へ広げ、「大曲南地区SDGs」を設定するなど、学びに広がりと深まりが生まれた。
○「ESDの視点に立った、学習指導で重視する能力・態度」を踏まえた、「身に付けたい力」に関わる生徒の変容を見取ることができた。

第56回全日本中学校技術・家庭科研究大会（技術分野・C生物育成）

知識・技能を活用する「実践力」を育てる授業づくり

大仙市立大曲中学校　教諭　佐々木　吉 彦

1　はじめに

県研究主題「社会の変化に能動的に関わり、自らの生活を作り出す力を育てる技術・家庭科教育」の下、学んだ知識・技能を活用するための授業づくり、地域との効果的な連携に取り組んできた。

2　取組の概要

「内容Ｃ・生物育成」において、解決策を考え追究していく過程を重視した題材構成・授業に取り組んだ。具体的な研究内容は、大規模校に適した育成作物の選定、基礎的・基本的技術の習得と生徒の考えを生かす学習段階の工夫、学び合いの充実、ＩＣＴの効果的な活用、地域関係者による作物の評価と活用である。

3　成果と課題

○生徒の個人テーマに対応した栽培方法の最適化
○副～主題材の学習展開による知識・技術の確実な習得と実際の管理作業における自発的な活用
○実習作物の外部評価を基にした生物育成技術の比較・検討と地域的課題の追究
●中学校段階における最適な評価規準の設定

公開授業研究会及び小学校外国語活動教員研修会

オールイングリッシュの指導を目指して

大仙市立東大曲小学校　校長　高 橋　　充

1　はじめに

本校では、2020年に小学校において英語教育が本格実施されるのに向けて、英語教育を専門とする国際教養大学町田准教授と６年学級担任が毎週ティーム・ティーチングを行いながら、英語力の養成を図ることを目的に研究実践を積み重ねてきた。この事業は、国際教養大学と大仙市教育委員会が本校を研究対象として共同で実施してきたものであり、今年度がこの事業のラストの３年目である。

この事業のまとめとして、６年生のオールイングリッシュの授業を公開し、協議会ではこれまでの本校の取組を紹介した。

2　教員の指導力向上を目指した取組

(1) 教師の不安を軽減するための取組

○教えの基本の活用（外国語活動編）
・１単位時間の展開例
・Teacher's Talk
・低・中学年の活動例
○ＡＬＴとの実践研修
○６年生のオールイングリッシュの授業を参観

(2) 児童が外国語や他国の文化に慣れ親しむための取組

○外国語活動、国際理解教育の年間活動計画作成と活用
○校内環境づくり
○５・６年生の外国語活動の交流
○ＡＬＴとの授業の充実
○国際教養大学生との交流学習
○インターナショナルデー開催
○国際花火シンポジウムへの参加

(3) 教材・教具を共有できるようにするための取組
○教材セット（項目ごと）と振り返りカードの共有

3　成果と課題

○授業者が外国語活動の指導において、同じ悩みや不安をもっているということを共有した上で、不安感を軽減する取組を実践したことにより、教員一人一人の授業実践への意欲が向上し、不安感の減少につながった。
○児童にとって、外国語や他国の文化に慣れ親しむ機会を増やしたことで、外国の文化や言語への興味・関心が高まった。
●授業実践を着実に積み重ね、自分への自信に結び付けることで、確かな指導ができるようにしていきたい。

第21回県南書写書道教育研究会大曲仙北大会

課題解決型の書写学習を目指して

大仙市立四ツ屋小学校　教諭　髙 橋　紀 子

本校では、「課題解決に向けて、自ら考え、共に学び合う子どもの育成」を研究主題に、研究を進めてきた。書写においても、課題解決型の探究プロセスの中で学びが深まるよう授業改善に取り組んだ。

1　具体的な取組

(1)「生活に生きる書写」を目指し、題材との出会わせ方を工夫する。
(2)「書字意識」を高めるため、子どもの気付きから課題解決の見通しをもたせる工夫をする。
(3)「相互批正」における話合いの目的や学び合いの具体の姿を明確にもたせる工夫をする。
(4)「次の課題への意欲」を高めるために、自己の学びを見つめる振り返りの工夫をする。

2　成果と課題

○課題解決のための見通しをもち、話合いを焦点化することで、文字の点画や筆使い等への学びを深め合う姿があった。
○課題解決に向かって検証しながら学習を進めることで、文字を整えて書く力を高めることができた。
●課題解決での理解が、更に技能の高まりに結び付くよう、より効果的な教材教具の検討が必要である。

第24回全日本小学校管楽器教育研究大会・東北大会

楽しいから「音楽」～ぼくらの夢を音楽にのせて～

大仙市立花館小学校　教諭　丹 波　貴 彦

1　はじめに

子どもたちが管・弦・打楽器の響きや演奏に関わり、音楽の学びを深めていくことにより、主体的・能動的に生涯にわたって音楽を愛好しようとする心情を育てることを目指した。

2　取組の概要

本校では、全校音楽活動運営委員会を組織し、教育活動として年間を通した全校縦割り活動の中で、音楽的な遊びの要素を取り入れた活動を行っている。そこにマーチングバンドの演奏が加わることで、より活動の幅が広がっていくのではないかと考え、後藤洋先生の作品「夕焼け小焼け」「こいぬのマーチ」を素材として、全校で一つの作品を創り上げようと取り組んだ。

3　成果と課題

○学校教育目標を意識した活動を通して、全職員の協力のもとで活動を進めることができた。「心を形に」が大きく現れた時間であった。
○一つの楽曲を計画的に無理なく進め、子どもたちの意欲を継続し、達成感・満足感をもたせながら合奏に取り組ませることができた。
●より楽しめる音楽遊びのレパートリーの充実、全体計画のスリム化及び内容の精選。
●音楽授業でのリトミックや朝の歌等の活動の充実、日常的に音楽に親しむ環境づくり。

いのちの教育あったかエリア事業（秋田県教育委員会）

体験活動を生かした道徳教育の充実

大仙市立平和中学校　教頭　築 地　　高

1　はじめに

本校の防災教育の要である「被災地交流活動」は今年度で６年目を迎え、「物の支援から心の交流を」をスローガンに、岩手県大槌町吉里吉里地区の方々との交流から、自助・共助の精神などを学び、命の大切さ、思いやりの心、ふるさとを思う心などを醸成する取組を継続している。今年度は神岡小学校と共に本事業の指定を受け、「生命の尊重・思いやりの心」を中心として、防災教育と道徳教育を核とした「心の教育」の一層の充実を図った。

2　取組の概要

(1) いのちに対する認識を深める体験活動
- 避難所開設訓練
- 被災地交流活動（復興祈念第４回夢花火大会、大槌神岡交流第６回グラウンドゴルフ大会）
- 被災地交流学習（旧大槌町役場、津波伝承館）
- 弁当の日、感謝まごころ弁当
- 地域ボランティア　等

(2) いのちの教育の充実を図る小・中連携
- 平和中学校区連絡協議会の開催
- 授業研究会への参加
- ＰＴＡ講演会の企画運営　等

(3) 地域人材の活用・地域との連携
- 神岡地域連絡協議会の開催
- 被災地交流における協力体制と連携　等

3　成果と課題

○生徒は「生命の尊重・思いやりの心」等について、実感をもって感じ取ることができた。生徒発表会では、体験活動での学びや経験をもとに、地域の一員としての生き方や自分自身の在り方にまで言及する姿が見られた。

○神岡地域及び被災地の方々との交流が深まり、生徒は望ましい社会性を形成している。様々な人たちの生き方や異なる地域性に触れることにより、今を見つめ、将来を見つめるきっかけになった。
○自己有用感・自他を尊重する心が育ち、表現力の育成にもプラスの波及効果が見られた。
●現実を目の当たりにする心に響く体験活動と道徳の時間の効果的な関連付けについて一層の実践研究が必要である。

心のバリアフリー推進事業（文部科学省委託事業）

共に学び　共に生きる

大仙市立大曲西中学校　校長　戸 嶋　藤 典

1　はじめに

大曲支援学校とのこれまでの取組実績から、「平成29年度学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解（心のバリアフリー）の推進事業」（以降、心のバリアフリー推進事業）のモデル地域に大曲西地区小・中学校が選定された。

2　本校における具体的な取組

(1) 心のバリアフリー推進事業概要説明と研修会
・担当指導主事による説明と講話
(2) 児童生徒、保護者に対する意識調査の実施
(3) 車椅子バスケットボール体験
・秋田県車椅子バスケットボールクラブ５名
・３年生26名と教員

(4) 大曲支援学校とスポーツ交流（２回実施）
・中学部１～３年生34名、３年生26名
・中学部１～３年生34名、２年生17名
(5) 外部講師を招いた教員研修会の実施
・講師；櫻田　武　指導主事
・内容「一人一人のニーズに応える特別支援教育の充実」～どの子も分かる、できる楽しい授業をめざして～
(6) 心のバリアフリー講演会
・講師；細谷 一博 氏（北海道教育大学函館校　准教授）
・対象；教員、保護者
(7) パラリンピアン講演会
・講師；竹内昌彦氏（岡山県出身）
・全盲の元卓球選手（1964東京パラリンピック出場）
・対象；全校生徒、教員、保護者

3　本校における成果と課題

○障がいのある人の困難さや努力、自分たちとの共通点について理解を深めることができた。
○生徒のお互いを認め合う雰囲気がより高まり、学級の絆が深まっていることが日々の活動から感じられるようになった。
○ユニバーサルデザインの視点での授業づくりが見られるようになり、一人一人のニーズや特性に応じた指導・支援が充実した。
●生徒の小学校での障害者理解教育の学習履歴を把握し、系統性のある指導を充実させていきたい。
●障害者理解教育についての研修を継続して行っていきたい。

ふるさと教育の推進（小学校）

はがきに乗って届け　ぼくらの思い

大仙市立豊川小学校　校長　太 田　博 史

豊岡にも、豊川にも、いいところがたくさんある。それを少しでも多くの人たちに伝えたい……。それが、豊岡小、豊川小６年生計16人の思いである。

そしてわれわれは、同じ中学校へ進む子どもたち同士の協働を通して、ふるさとのよさの再発見を、ふるさとの活性化に貢献する自己有用感を、将来もふるさとを大切にして生きていく意欲を……。そんな願いを込めて、今年度の総合的な学習の時間をスタートさせた。

グラウンドの満開の桜を皮切りに、子どもたちは、カメラを片手に、ふるさとの風景を写して歩いた。見慣れた景色も、いつもとまた違った見え方をしたに違いない。

夏と秋には、両校合同の編集会議。撮りためた写真のどれを使うか、どんなキャプションを付ければ自分たちのふるさとのよさが伝わるか、頭をひねった。

できた絵はがきセットの無料配布を、道の駅でも公民館でも快諾してくださったことが、ほんとうにありがたかった。絵はがきを入れたボックスは、あっという間に空になった。子どもたちは大満足。校長は、彼らの思いが、はがきに乗って日本中をかけめぐることを夢見ている。

ふるさと教育の推進（中学校）

地域の教育力を活用した森林学習

－森林環境学習、林業作業活動、木育活動を通して－

大仙市立豊成中学校　校長　今 野　敏 行

地元の森林環境保全団体と連携し、ふるさとのよさや素晴らしさにふれ、学校・地域の活性化につながる体験活動を重視した“ふるさと教育”（ふるさと学習・森林学習）を昨年度から展開している。

〈主な活動〉

①地域の歴史に関する講話　②枝打ち間伐作業
③森林公園の整備活動　④木材製材工場見学
⑤竹木材の加工および活用　⑥木彫工芸作品づくり
⑦植樹活動　⑧森林学習交流施設での体験活動

本活動を通し生徒たちは、多くの人たちとの関わりや出会いがあった。その中で、主体性やコミュニケーション力が高まり、協力する大切さや感動する心を仲間と共有し成長してくることができたと強く感じる。今後も豊成中学校はもっともっと地域に目をむけ、地域と共に歩む特色ある「ふるさと学習」を展開していきたい。

平成29年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰

子どもの学びを豊かにする体験活動

大仙市立中仙小学校　教頭　佐 藤　美喜子

中仙地域は、伝統的に教育に対する期待が高く、学校に協力的な地域である。平成21年度に「ガ・ボラ」（学校支援地域本部）を立ち上げ、以来、地域と学校が一体となって取り組む活動を推進してきた。児童の学びを地域で支え、様々な体験活動が教育活動に位置付けられている。地域の方々がゲストティーチャーとして指導してくださる機会が数多くある。ふるさとの自然や伝統文化など、本物に直接触れる体験によって児童の学びが深まり、郷土の一員としての自覚が高まってきた。

「ガ・ボラ」の取組は、地域に貢献する人間の育成という学校の願いと、ふるさとに誇りをもち、ふるさとの未来を担う人材を育成したいという地域の願いとが合致し、これまで継続されてきた。今では、中仙小学校の特色ある活動の一つになっている。

なお、「ガ・ボラ」（学校支援地域本部）を今年度から「地域学校協働本部」に名称を改めた。

「大仙っ子読書の日」に係る取組事例

進んで本に親しむための図書館経営を目指して

大仙市立内小友小学校　教諭　長 塚　裕 子

本校では、子ども読書支援サポーターや図書ボランティアの協力を得て、子どもの読書意欲の向上と質の高まりを目指し様々な取組をしている。

1　環境整備

図書室周辺は季節感にあふれ、展示コーナーも充実し、子どもたちが足を運びたくなる図書室になっている。さらに、県立図書館の学校図書館活性化支援事業学校訪問でご指導いただき、児童によるおすすめの本カードの書き方を改善した。学年に応じて、おすすめの本のキャッチコピーづくりをしたことは、子どもと本が強く結び付くことにつながった。

2　全校2000冊読書

今年度中に、全校合わせて2000冊を目標に読書活動をスタートした。読んだ本は本貯金ファイルに記録し、蓄積していく。12月現在6149冊に達し、目標を大きく上回った。冊数が増えることで意欲が高まるとともに、おすすめ度を示すことで、お互いに情報交換がなされ、次の読書へとつながっている。

平成29年度秋田県安全・安心まちづくり功労者表彰

「清水っ子身守り隊」に見守られて

大仙市立清水小学校　校長　照 井　美 久

平成17年、民生委員の方々を中心に「清水っ子身守り隊」が結成された。以来、毎週火曜日（現在は水曜日）放課後に通学路のパトロールを12年間継続して実施していただいている。

２名でチームを作り（メンバーは合計10名で交代で実施している）、５校時終了あたりからパトロールに出かける。終了後は通学路マップのついたパトロール日誌に気づいたことを記入すると共に、校長と懇談を行い、下校の様子や道路状況の変化、注意点等を報告していただいている。学校ではそれらを基に子どもたちへ指導を行っている。

隊員の方々には毎年入学式に出席していただき、全校児童・新入生保護者に隊員の方々及び活動内容について紹介している。子どもたちは地域の方々に見守られているという安心感をもつと共に自分たちのために活動して下さっている方々への感謝の気持ちをもつ機会ともなっている。

これからも変わらず、清水っ子の安全・安心を見守っていただきたいと願っている。

だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業（市教育委員会）

避難者の心に寄り添い地域に根ざした避難所開設訓練

大仙市立太田中学校　教諭　渋 谷　　聡

1　ねらい

「生徒・職員が避難所開設に伴う役割分担や協力支援の方法を学ぶ」「学校・地域が一体となった運営」「心に寄り添った運営と、地域の一員としての主体的な参画」という三点をねらいとした。

2　訓練の概要

10月26日（木）太田地域を震源とする強い地震が発生。多くの家屋が倒壊し、水道・電気のライフラインが停止。太田中学校が避難所になるという想定で、全校に指示が出された。

3　成果と課題

成果として、当日スムーズな活動をすることができた。協力して一つのことをやり遂げた達成感が生徒の感想から伝わってきた。大槌交流活動で培った「心に寄り添う精神」が当日も随所に見られた。活動を通して地域の一員としてのあり方について考え行動する機会となった。課題として「指示待ちで行動してしまった。」という感想から主体的に活動する場を意図的に設ける必要があったのではないかと考えている。

「大仙ふるさと博士育成」事業（市教育委員会）

地域とつながる「大仙ふるさと博士」

大仙市教育委員会教育指導課　指導主事　阿部　光教

1　はじめに

本事業は「小・中学生が自ら地域と関わることにより、ふるさとを愛する心を育て、地域の将来を担う人材の育成を目指す」ことをねらいとし、平成28年７月から始めている。

2　今年度の特色ある取組

夏季休業と冬季休業には、『「大仙ふるさと博士育成」事業企業見学ＤＡＹ』を実施している。これは、子どもたちや保護者が大仙市内の特色ある企業を訪問し、見学や体験活動を行うものである。今年度は次の８つの企業で実施した。

(1) 夏の特別企画　企業見学ＤＡＹ〈平成29年〉

①７月24日　大同衣料（株）CROSS STAGE
会社概要の説明を聞いた後、販売店やコーヒーショップで職場体験を行った。

②７月25日　ナガイ白衣工業（株）
カッティングセンターや物流センターの見学をし、白衣の試着を行った。

③７月25日　（株）ＴＭＯ大曲　ＦＭはなび
スタジオや生放送の見学とアナウンス体験を行った。

④７月28日　（株）ＩＭＩ　ポルミート
ソーセージ工場の見学と試食を行った。

(2) 冬の特別企画　企業見学ＤＡＹ〈平成30年〉

①１月９日　合名会社　鈴木酒造店
酒蔵や文庫蔵を見学し、甘酒の試飲を行った。

②１月10日　アネスト岩田（株）
会社概要の説明を聞いた後に工場の見学をし、スプレーガンの体験を行った。

③１月11日　（株）タニタ秋田
会社概要の説明を聞いた後に工場の見学をし、業務用製品を使った試測体験を行った。

④１月12日　小松ばね工業（株）
会社概要の説明を聞いた後に工場の見学を行った。

3　おわりに

「企業見学ＤＡＹ」を終えたアンケートから、子どもたちは地域に根ざして努力している素晴らしい企業がたくさんあることを知るとともに、受け入れた企業側からも、未来の同僚である子どもたちと関わった本事業を通して「地域づくり」「人づくり」を学校等と連携して進めていきたいという力強い声を聞くことができた。

11月には大仙ふるさと名誉博士が誕生し、１月には本事業が評価され、**第11回キャリア教育優良教育委員会文部科学大臣表彰**を受賞した。今後も本事業の推進を通して、「地域に根ざしたキャリア教育」の充実を図っていきたい。

＜名誉博士記念バッジ＞

グローバルジュニア・マイスター事業（市教育委員会）

I love communication, I love Daisen!

大仙市教育委員会教育指導課　指導主事　牛木　豊

1　事業のねらい

国内外の多様な人々との交流や、ふるさとのよさを発信するなどの活動を通して、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を図る。

2　事業の概要

〈対象〉大仙市内の小学校３年生～中学校３年生
〈活動内容〉

(1) 授業以外でのALT・CIR等との外国語での交流
(学年に応じた、「話す」ことによる交流を推奨)
(例)小学校３、４年生…あいさつ＋α（伝えたい内容を発信）
小学校５、６年生…内容のあるやりとり（伝えたい、知りたい情報を伴う）
中学校…自分の考えや意見を交えながらのやりとり

(2) AIU異文化交流事業における留学生との外国語での交流

(3) 海外や県外からの観光客などに、観光案内や地域のPRを通しての交流（ふるさと秋田・大仙のよさを発信する等）

(4) 県教育委員会主催イングリッシュキャンプや、英語暗唱弁論大会への参加

3　成果と課題

＜平和中『インターナショナルデー』＞

○昨年４月に行われた国際花火シンポジウムをはじめ、国際教養大学との異文化交流事業や学校行事を活用した様々な取組が見られた。

○ALTが積極的に事業に関わることで、児童生徒の意欲を高め、活動の推進につながった。

○一度の機会を活用し、複数の相手と交流することでポイントの獲得につなげる取組が見られた。

○事業に関する校内掲示等を設置したり受賞者の表彰を行ったりして、児童生徒の意欲を高めるように協力していただいた。

●外国の人との交流事業を活用できる場面が限定されていて、機会を確保することが難しい。

●特に小学校では、授業以外の場面において児童がALTと関わることができる時間が少ない。

●事業の進め方、ポイントの申請等について、学校に対しての周知が不十分な点があった。

＜小学校用記念バッジ＞　＜中学校用記念バッジ＞

＜左から順に、ブロンズ、シルバー、ゴールド＞

意欲的に取り組んでいる場合には
どんどんポイントをあげてください。

大仙市立中学校生徒海外派遣事業（市教育委員会）

Great Memories in Australia

大仙市立大曲中学校　髙 橋　苑 子

１月３日、お正月の大曲駅から、20名の中学生が真夏のオーストラリアへ出発した。どの顔にも、これから迎える９日間への期待が満ちていた。彼らがファームステイでどんな体験をし、どれだけ多くの思いをもって帰って来るだろう…９日後の彼らの表情を見ることを楽しみにして飛行機に乗り込んだ。

ステイ先では、どの家庭でも家族の一員として温かく生徒を迎えてくださった。生徒は、何気ない会話や昼食作りなどを通して、英語が伝わる喜びや、また、伝わらないもどかしさを体験した。思うように伝わらない場面に出くわした時、「何とかして伝えたい！」と奮闘して英語で表現しただろうことは、ホストファミリーと涙ながらのハグでお別れする姿から充分に伝わってきた。翌日には、同年代のオージーキッズとバディを組んで交流した。走り回って汗を流す姿はクラスメートと共に活動しているようだった。

今回の研修で、生徒には多くのすてきな出会いがあった。現地だけでなく研修生同士の出会いもそうである。「一期一会」の言葉通り、もう会えない人もいるだろう。ともに経験したあのひと時を心に留め、今後の生活に生かしてもらいたいと思う。

大仙市中学生サミット（市教育委員会）

自分たちでつくる安心・安全

大仙市教育委員会教育指導課　指導主事　小田長　早 苗

【中学生サミット全体会　平成29年８月21日】

第１部では、昨年度の中学生サミットで立ち上げた「地域活性化プロジェクト」に関わる実践紹介を行い、さらなる活動の推進を誓った。

第２部では、「自分たちでつくる安心・安全」のテーマの下、主に自転車乗車時の交通安全についてグループで協議をし、意見を出し合った。また、小学生は自転車シュミレーターを用いて安全な自転車の乗り方について体験を通して理解を深めた。これらの活動をきっかけにして、「自分の命は自分で守る」という意識を高め、自らの意志でヘルメットを着用する子どもたちが増えることを願っている。

【その他の主な取組】

・ＲＥＶＯ通信No.１～No.３の発行
・避難所開設訓練への参加（太田中学校にて）
・中学生サミットポスターの作成と配布
・ＲＥＶＯ11（各校版ＲＥＶＯ通信）発行

コロンブスの卵わくわくサイエンス事業（市教育委員会）

「科学」の進歩を体感！

大仙市教育委員会教育指導課　指導主事　和 田　英 範

“理数教育の充実”に資するために始まった、中学生対象の「中学生首都圏大学・総合研究所派遣」は今年度で７年目を迎えた。

【概要】

８月３日（木）から４日（金）に、中学生18名が参加して実施された。一日目は産業技術総合研究所と日本科学未来館（東京都）へ、二日目は理化学研究所（埼玉県）等で研修を行った。

【参加生徒・保護者へのアンケートから】

最先端の施設での見学や体験を通して、将来、科学に関連する仕事に就きたいと考えていた生徒全員が「今回の事業を通じて、さらに強く思うようになった」と答えている。保護者からは「子どもの世界観が広がった」「子どもの成長を感じ取ることができた」「夢から具体的な目標をもつことができるよう家庭でも話題にしていきたい」などの感想が寄せられ、この事業の成果を確認することができた。

心のプロジェクト「夢の教室」（市教育委員会）

夢先生との出会いから未来へ

大仙市教育委員会教育指導課　指導主事　小田長　早 苗

今年度の「夢の教室」はスポーツ分野から４名、芸術分野（絵画・音楽）から３名の先生方をお招きし、小・中合わせて20校で開催した。

期待で目をキラキラさせている子どもたちに、夢先生たちは自分が小・中学生だった頃の話や失敗談も入れながら、夢を実現するまでの過程を丁寧に伝え、プロの技、演奏を息づかいを感じるほど近くで披露してくださった。子どもたちはその素晴らしさに心揺さぶられ、プロになってからも更なる目標に向かって努力を続け前進している夢先生の姿を見て、自分の夢や姿と重ね合わせ、何かを感じているようだった。

この夢先生との出会いが、子どもたちの夢と未来へつながる道筋を照らす明かりの一つとなってくれればうれしく思う。

〈スポーツバージョン〉

〈音楽バージョン〉

第22回大仙市教職員研究集会　職務別研修（市教育委員会）

実践的指導力を高める研修について

大仙市教育委員会　教育研究所長　佐 藤　厚 子

確かな学力を支える生徒指導の充実、「特別の教科　道徳」についての理解推進、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実等、時代の要請に応じた不断の研修が求められるところである。

本市では、各分野における実践的指導力を高めることを目的とし、教職員研究集会当日の午前中に、次の三つの研修会を実施した。

【生徒指導主事研修会】（担当：和田英範指導主事）

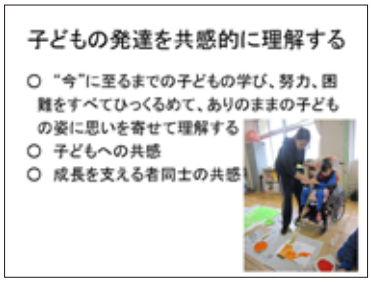
スクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）の活用の実際について研修を実施した。秋田県教育庁南教育事務所小田島容子、鎌田明子両ＳＳＷから、これまでの活動事例等を交えながら、講話をいただいた。多種多様な問題を抱える学校現場や家庭において、スクールカウンセラー等や市の相談機関以外の新たな連携機関として、今後の有効活用が期待される。

【道徳研修会】（担当：牛木豊指導主事）

「特別の教科　道徳」の全面実施を目前に控え、今学校で取り組むべきことに関する研修会を実施した。「道徳教育推進教師を中心とした協力・指導体制の充実と計画づくり」について大曲中学校佐藤麻希教諭から実践発表をしていただき、各校の体制づくりにおいて必要な情報を共有することができた。また、秋田県教育庁南教育事務所小坂浩一指導主事を講師に、伝達講習とその内容に基づいたグループ演習を行い、全面実施への見通しをもつことができた。

【特別支援教育支援充実研修会】（担当：櫻田武指導主事）

学校生活支援員と各校の代表者86名が参加した今回の研修テーマは、「障害者理解教育」。秋田県立横手支援学校の松井克彦教頭先生から、「障がい児の理解について～周りの子への理解もふくめて～」という演題でご講演いただいた。参加者は「児童の発達について共感・共有することの大切さを再確認した。」「子供の特性の理解、そして周りの児童について配慮が大切だと感じた。」など、心のバリアフリーについて研修を深めた。「心のバリアフリー」はユニバーサルデザインの授業づくりの基礎になる部分であり、大事にしたい視点である。



＜当日の資料より＞

第22回大仙市教職員研究集会　全体会（市教育委員会）

大仙教育メソッドの一層の推進

大仙市教育委員会　教育研究所長　佐 藤　厚 子

今年度の教職員研究集会は、大仙教育メソッド２年目ということを踏まえ、「大仙教育メソッドの一層の推進～地域活性化に寄与できる子どもの育成～」のテーマの下、開催した。

吉川教育長講話、市観光交流課職員であるジョーダン・オックスボロ氏による大仙市の魅力についての発表。さらには、魅力あるまちづくりと地域活性化に向けた取組について、市まちづくり課職員と地域おこし協力隊員の講演を聴いた後、大仙教育メソッドの推進状況について花館小学校、平和中学校、豊成中学校３校の発表が行われた。

花館小学校は、地域の伝統と教育力を生かした活動について、平和中学校は、「学ぶ力」においての小・中連携の具体例等を、豊成中学校は、地域の教育力を活用した森林環境学習について、各校とも特徴ある取組の発表が行われた。

＜豊成中学校の発表＞

平成29年度　教育研究所のあゆみ

1　大仙市教職員研究集会

①第１回大仙市教職員研究集会（H29．5．2）
　□吉川教育長講話　□特色ある取組発表
②第２回大仙市教職員研究集会（H29．8．1）
　□職務別等研修会（午前）
　　○生徒指導主事研修会
　　○道徳研修会
　　○特別支援教育支援充実研修会
　□全体会（午後）
　　○吉川教育長講話
　　○大仙市の魅力について
　　○魅力あるまちづくりと地域活性化に向けた取組について
　　○大仙教育メソッドの推進状況の発表
　　（花館小、平和中、豊成中）

2　学校訪問

①教育委員会訪問…学力向上、「総合的な学力」の育成、生徒指導上の課題への対応、大仙教育メソッドの推進等について状況を把握し、改善の手立てなどを確認
②事務指導訪問…各校における会計関係及び学籍等に関する諸帳簿の状況を把握し、それらが適正に管理されるよう支援

3　学力向上対策（学力向上推進委員会の活動内容）

①全国学力・学習状況調査及び秋田県学習状況調査の分析結果を提供
②課題を踏まえたフォローアップシートの作成

発　行　大仙市教育研究所
〒014-8601　秋田県大仙市大曲上栄町2-16
TEL：0187-63-9400　FAX：0187-63-9401
E-mail：om-kyouken@edu.city.daisen.akita.jp